

事務事業名	食の幸発信推進事業	所属部	産業振興部	所属課	産業推進課	
総合計画体系	政策名	(V)挑戦し活力を産みだすまち<産業>	所属G	地域産業支援G	課長名	須田弘
	施策名	(33)地域資源を活かした産業の創出	担当者名	加藤雄二	電話番号	0854-40-1052
	目的:対象	市内の事業所(者)	意図	新分野進出、新商品開発をする。	(内線)	3708
	基本事業名	(100)新商品の開発支援	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 3 5 1 6 項 目 中事業 中事業名 0 5 1 0 0 1	食の幸発信推進事業	
目的:対象	新分野進出・新商品開発を考へる市内の事業所(者)	意図	新商品を開発する。	食の幸発信推進事業		

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度～)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (26 年度～ 30 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
○雲南市の食の魅力を発信する施設を建設し、農商工連携、6次産業化の強化を目指す。
○場所は木次道の駅の北側の空き地を予定し、既存の道の駅と合わせてその機能を発揮できるように整備する。
○市内の1次産品、加工品等の販売所、加工品づくりのための調理施設、イベント広場などを想定している。
○施設の規模は、1300㎡と想定する。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	26年度実績(26年度に行った主な活動)	27年度計画(27年度に計画する主な活動)			
		○基本計画策定 ○先進地視察 ○土地の評価額調査	○基本設計の実施			
	② 活動指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
	ア 基本計画策定	件			1	
	イ 基本設計策定	件				1
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
	市民施設利用者	ア 人口(人口推計)	人	40,548	40,055	39,472	39,458
		イ 観光入込客数	千人	966	1,438	1,377	1,300
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)	
雲南の食が良いと感じる雲南産品を購入する	ア 利用者数(木次道の駅)	人	112,907	128,076	131,716	130,000	
	イ 売上高(木次道の駅)	百万円	99	110	119	120	
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (26年度決算)	② コストの推移	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
○役務費72千円 ○旅費186千円 ○委託費3,819千円 ※土地評価鑑定 703千円 ※基本計画策定 3,116千円 合計 4077千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円		4,077	0
		事業費計(A)	千円		4,077	
	人件費	正規職員従事人数	人		1	
		延べ業務時間	時間		50	
		人件費計(B)	千円		194	
		トータルコスト(A)+(B)	千円		4,271	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
平成19年度に発足した雲南ブランド化プロジェクトでは、食を含めた4つの幸(地域資源)に注目した取り組みを展開。平成20年度には雲南市農商工連携協議会が発足し、一定の成果をあげる。しかし、現況の担い手不足、高齢化、米価の下落に対抗する具体的な取り組みが必要となっている。	この事業は、これまでの取り組みを踏まえて行う、「食の幸(地域資源)」の活用を推進する6次産業化施設整備の基本計画の策定である。	議会から雲南市の特産品の販売施設の必要性について言及があった。また、食品加工事業者からは、商品開発ができる設備がほしいという要望を受けている。また、地域経済の浮揚策としての期待から国の地方創生では、6次産業化に注目が集まっている。

事務事業名	食の幸発信推進事業	所属部	産業振興部	所属課	産業推進課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	計画の精度を今後、基本設計で向上させていく。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	具体的な施設に関する整備計画策定なので、他にええられない。	
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
B 有効性	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	必要最低限の人員及び業務時間で業務を行っているため、人件費の削減余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
		C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
		D 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
		基本計画の策定ということで、大まかな方向性をつくった。現状、調整すべきところが多くあるので、関係機関との連携をすすめながら、基本設計の具体化を図りたい。	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持		●	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持		●																		
	低下	×	×																		
関係機関との連携を密にして基本設計業務を推進する。		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			